

ジュゴン Vol.55

ちゃんぷるニュース



2011. 3. 21

～パシフィック・ジュゴン年～

CONTENTS

- 2/3 稲嶺名護市政とともに
- 名護市長1周年激励会
- 名護写真展と意見交流会
- 4/5 各種イベント報告
- YMCA 学院高校出張講義
- 7 コラム・「キジムナー」
- 8 お知らせ



去年の11月の終わりに、豊さんから3月に名護市でコンサートをするよと聞いたとき、すぐに参加したいと思い、おもしろいことになりそう、そんな予感がしました。

2010年10月に名古屋でCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）、アラブ首長国連邦でジュゴン保護覚書第1回署名国会議が開催され、世界のジュゴン保護の流れは大きくなってきました。この流れを『保護区作り』に活かしていくチャンス！

稲嶺名護市長は『基地に頼らない地域づくり』を掲げています。SDCCは名護市や名護市議会へ陳情や意見書提出をし、連携して保護区作りを進めていきたいと取り組んでいます。3月議会には意見書を提出します。この大事な時期、コンサートに合わせて何かできないだろうか？

ジュゴンの棲む辺野古・大浦湾はアオサンゴをはじめ様々なサンゴの群落が広がり、たくさんの生命が育まれている自然豊かな海です。その海を守ろうという思いを地域の皆さんと共有したい、輪を広げていきたいと写真展を開催することになりました。今回は海だけでなくやんばるの森の写真も飾ります。やんばるの森と海は、貴重な自然が残っている世界に誇るべき宝物。たくさんの人に知ってほしい。

宝の海を守っていこう

瀬嵩で毎週日曜日に朝市を続けているおばあは言います。「海の恵みがあつたから、子や孫を育ててくれたんだよ」「海が壊されるのは心が痛むよ」「あきらめないさあ、基地に頼らない暮らしのためにやってるんだよ」と。その思いを受け継いでいきたいと思っています。

ある時、地元の人に「保護区ってどうしたらつくれるの？」という問いかけをしました。

「そこに暮らす人々がその海を大切に思い、大事にすること。そうすることでその海が保護区に、聖地になっていくんだよ」そう教えてもらい、とても心に響いたのを思い出します。

“大切にする”“海の恵みに感謝する”その思いとともに、保護区作りを着実に進めていきたいと思っています。辺野古を平和の観光スポットに！3月の写真展が楽しみです。（関西・池側恵美子 3/3 記）

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp

フィリピン訪問記（8面）



お土産のジュゴンマスコットにわく環境自然資源庁のスタッフたち

名護市役所訪問（3/11）



比嘉教育長さんへジュゴングッズをプレゼント☆

稲嶺名護市政とともに～ジュゴンとその生息地を守ろう

＜市民目線の稲嶺市長＞

稲嶺市長就任1周年の激励集会在2月17日に名護市民会館で行われました（別項）。基地建設に協力しない名護市長を、国が裁判で訴追するという状況下で開催されました。会場舞台の両脇には1年間の実績を書いた垂れ幕「基地交付金に頼らないまちづくり」「待機児童150人を解消」など6本が飾られました。稲嶺市長は「間違ったことはしていない。地域主権を示す気概を持って立ち向かおう」と力強く挨拶し、参加者1500人と心一つにしました。

＜名護市への働きかけ＞

昨年7月、ジュゴン里ツアーの際に市役所で比嘉教育長と交流しました。元高校教員でもある比嘉さんは「やんばるの自然」の写真をかざして「自然の美しさで有名になりたい」と語っていました。昨年12月には、「ジュゴンとその生息地の保護を環境省に求める決議」を名護市議会に提出するとともに、親川名護副市長、市民環境部長、

企画総務部長に事前説明しました。今年2月、市長の就任1周年激励集会上では、稲嶺市長に名護市での野生生物を保護する条例の検討を求める要請書を手渡しました。そして、再度、3月名護市議会に「ジュゴンとその生息地の保全に関する意見書」を提出しています。

＜署名を無視する環境省＞

2月下旬、環境省は種の保存法の一部改正に関するパブリックコメントを募集しました。今回の改正でも沖縄ジュゴンを法的保護の対象にあげていません。これは国際自然保護連合（IUCN）の三度の決議や「選定される種に該当する」とした2004年7月の閣議決定、そして昨年提出した4万5千人の署名を無視するものです。名護市は4月の機構改革で環境担当課の設置を検討しています。3月名護市内で「海勢頭豊コンサート」、「写真展とお話し会」を取り組み、市議会決議の実現で、名護市とともにジュゴンとその生息地の保護に前進したいと思います。

稲嶺市長に要請書を手渡す海勢頭代表

稲嶺名護市長就任1周年に想う

去った2月17日、名護市中央公民館において、稲嶺進名護市長の市長就任1周年激励会が行われました。1500名もの支援者が名護市内外から駆けつけ、その中にはSDCCの海勢頭豊共同代表や蜷川義章事務局長の（笑）顔もありました。

会場は、この1年間、稲嶺市長が基地建設NOの立場を貫いてきたことに対する感謝の気持ちと、揺るぎない支援の決意で溢れていました。

日本政府は、決定済みの「再編交付金」の取り止めを表明し、稲嶺市長の頭越して建設容認派と接触をしてきました。さらには、辺野古周辺への環境調査を許可しなかったことを理由として、市長を裁判に訴えることまで示唆しました。

しかしその圧力のなかで、稲嶺市長は基地NO

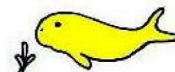


の立場を貫き、同時に「基地に依存しなくても名護市はやっていける」という意識を多くの市民に芽生えさせてきたといえます。

SDCCの役割は、ジュゴン保護の動きを通して、名護（沖縄）と本土と世界を結びつけ、稲嶺市長と名護市の持続可能な発展を応援していくことだと思います。その為にも「ジュゴンの里ツアー」を成功させ、保護区へ向けての世界の動きを伝えていきましょう。 沖縄・吉川秀樹



外務省はメア差別発言の公開を求めるべきです



メア前米 국무省 日本部長の「沖縄、ゆすりの名人」との差別発言が明らかになりました。普天間基地の辺野古移設が進まない怒りの表れです。キャンベル 国務次官補やルー ス駐日大使が直ちに謝罪するなど幕引きに汲々としています。4月29日には2+2（日米安保協議委員会）を開催し、新基地の形状や位置を確定するためです。

「普天間は特別に危険ではない」と言ったら沖縄の人から抗議されたが、彼らも本当はそう思っている」と発言したメアが日米交渉の責任者でした。クリントン 国務長官にも「普天間基地が現状維持でも米国に不利益ではない」と報告しています（沖縄タイムス3月12日）。外務省は2+2開催よりも、世界一危険な普天間基地の即時閉鎖・撤去を求めるべきです。

やんばるの森と海

東日本大震災による津波警報で、名護市内で3月12日に予定していた海勢頭コンサートが中止になりました。翌日、図書館での写真展「ヤンバルの森と海」の開催も危ぶまれましたが、150人を超える参加で成功しました。すなわくスナフキンさん、牧志治さん、そして名護市教育長の比嘉恵一さんからの写真提供という豪華な写真展で、子ども連れ参加者も多く、食い入るように見入っていました。

写真展の一角で行われた意見交流会「豊かな海を守るために」では海勢頭豊代表のあいさつに続き、スタッフ・正阿彌さんのフィリピン・ミンダナオ島でのジュゴン保護区の視察報告。地元市議の東恩納琢磨さんから「ジュゴン保護の自主ルールづくり」が報告されました。フィリピン報告では、国、自治体、NGOが

名護で写真展
&
意見交流会



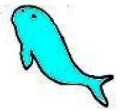
パートナーシップ協定を結び、「クリティカル・ハビタット」で住民参加を意識的に進めるなど、従来の保護区づくりの限界を克服する取り組みが明らかにされました。琢磨さんは、アオサンゴ群集保護の見学を地元の若い漁師の協力で進めていること、来年3月5日をサンゴの日として、ホテルとのタイアップを検討していることを報告しました。ジュゴンネットワーク沖縄の細川さんからは、ジュゴンのえさ場、海草藻場を守るために、農家に低農薬米の作付けを働きかける構想が報告されました。また、「保護区は規制」との画一的観念がある中で、海草藻場やもずく栽培など具体的なゾーニングの検討や種の保存法の種指定を先行させることなど議論が深められました。事務局・蛸川義章





虔十の会 坂田さん

第2回生物多様性シンポジウム



～名古屋COP10をふまえて、これから私たちにできること～

3月6日、大阪市の港近隣センターで開かれた生物多様性シンポに参加しました。主催は昨年5月に御堂筋パレードを行った実行委員会。SDCCも実行委員のメンバーとしてブースを出しての参加です。第一部では先ず、虔十の会代表でCBD 市民ネットでも活躍されている坂田昌子さんによるCOP10 愛知ターゲットの解説。COP10 前の全国調査で生物多様性について「知らない」が65%と、普及啓発がまだまだであることが指摘されました。他方、効果的で参加型の国家戦略を立てるため「生物多様性保全活動促進法」が制定され、自治体はNGOからの行政施策提案を受け付ける義務を負い、市民団体の積極的活用が期待されることが紹介されました。引き続き、ホットスポット現状レポートとして、上関や高江、高尾に関わる方々から今まさに生物多様性が脅かされている現状の報告があり、SDCCも基地の偏る沖縄の状況と辺野古の自然が直面している問題について報告しました。

第2部では参加者も交えてよりよい未来を築く方法について語り合い、第3部では様々な取り組みをされているNGOなどからの短い紹介トークもありました。ネット中継を含め、全国300名の方にご覧戴けたとのことでした。

関西・海勢顕聖



SDCCの報告



ワールドカフェ (参加者みんなでトーク)

にっしい劇場で 沖縄のジュゴンの話



2月26日(土)三軒茶屋の「カフェおはな」で「沖縄のジュゴンの話」をやりました。

参加者は8名と、「にっしい劇場」ならではのゆる～い集いとなりました。

アブダビの映像に続き、「ジュゴンの海から」(2001年制作)を上映し、昨年の「ジュゴンの里ツアー」の写真を見て頂きました。東恩納琢磨さん、渡具知武清さん、浦島悦子さんの10年経っても変わらぬジュゴンをはじめ沖縄の自然を守る情熱に感激。

ジュゴンってこんな動物(小平さん)、沖縄に基地が出来たらジュゴンはどうなるの(三村さん)などの説明をして頂いた後、泡瀬干潟の映像を上映し、最後に飛び入りで、参加者の方に高江の現状を話して頂きました。

「高江の動物は人間を疑う事を知らないかと思う程、人間に近づいて来る」という話が心に残り、ジュゴンや自然を裏切らない、という事を実践して行きたいと、再認識しました。

首都圏・西村秀樹





写真展 沖縄 うみさんぽ

辺野古 大浦湾



1月27日～30日、大阪・吹田市のカフェギャラリー“カシオペイア”で牧志治さんの写真展をしました。牧志さんは辺野古・大浦湾をフィールドにして撮影されているフリーランスのカメラマン。辺野古テント村で、海案内もされています。最終日には「ジュゴンお話し会」とグッズ作りのコーナーに、子どもたちも含めて、たくさんの来場者がありました。写真を見ながらのんびりお話し出来るイベントとなりました。温かいおもてなしで写真展を盛り上げてくれた、ギャラリーオーナーのチドリさんの感想をご紹介します。

関西・山根富貴子



写真の前でおしゃべり

思った以上にステキな作品の数々に心を奪われてしまいました。どんな言葉も、このありのままの風景にはかきませんね～。知り合いにこのことを話したら「写真でさえもそのぐらい伝わるのだから、実際に行って見たらもっと伝わる」と言われました。確かにそうだと思うのですが、私は、牧志さんの心を通じたものとしての写真が私たちの何かを動かすのだと思うのです。もちろん、その動いたものからジュゴンのことや、沖縄というところがどのような位置づけとさせられてきたのかということをもっと知りたいと感じられることが大事なことで、その上で行って見る「沖縄」であることが、大事なんじゃないかな？って思いました。

チドリ



マスコット作りに熱中する子どもたち



YMCA学院高校で授業

1月27日、大阪YMCA学院高等学校にて「やさしい沖縄講座～人魚のすむ海～」と題した講義を行い、1年～3年生の13人の生徒が履修しました。スタッフ3人で講師を務め、沖縄の自然や歴史、基地問題や現地の様子、SDCCの取り組みなど盛り沢山の内容でした。4時間という長丁場に、生徒たちの集中力が続くか心配な部分もありましたが、皆、真剣に授業を受け、こちらからの質問にも素直な気持ちを答えてくれました。「悲しい歴史やできごと、今なおそれが続いていること、また新しく起こっていることを知ることができて良い経験になりました。」「できれば、自然を守りたいという同じ思いで、一緒にボランティア活動とかできたらいいなと思いました。」など生徒たちからうれしい感想をもらいました。これからの世代にジュゴンや沖縄のことを伝えるこのような機会を大切にし、授業を受けた生徒の中から将来、一緒に活動できるような仲間が生まれてほしいと思いました。

関西・正阿彌崇子



沖縄の基地の多さを
実感してもらうために、
代表的な基地に色
を塗ってもらいま
した。

ご案内

第11回総会にご参加を



4月10日(日)午後1時30分から大阪・ドーンセンター(京阪電車天満橋下車)で第11回総会を開催します。結成から満10年、大阪での三年ぶりの開催になります。1部総会、2部立食パーティ(会費500円)で行います。ご出席をお願いします。以下、概括と方針案を提案します。

(概括案)「2010年国際ジュゴン年」でジュゴン保護の輪を広げた。

1. ジュゴン保護が世界の流れとなった。
ジュゴン保護覚え書き第1回署名国会議(アブダビ)、CBD・COP10(名古屋)など国際連帯を取り組んだ。
2. ジュゴン保護区を求める署名・交渉を通年的に取り組んだ。署名4万5千筆提出。
3. 9月名護市議会選挙で東恩納琢磨議員の再選を実現した。
4. ツアーや写真展、大学や高校での出張講義などを取り組んだ。
5. 会費、事業収入の減少で、厳しい会計運営になった。

(方針案) 2011年パシフィック・ジュゴン年をSDCC飛躍の年に

1. 2012年IUCN(チェジュ)にむけて国際連帯を強める
東南アジアのジュゴン保護NGOとの関係を強める。
2. 「基地ではなくジュゴン保護区」を名護市と連携して環境省に働きかける。
3. 「ちゃんぶるニュース」の拡大でSDCC活動を広げる。

(2010年決算案)

| | | | | | | | | | | | |
|----------|------------|--------|------------|--------|------------|-----|-----------|-----|----------|----|---------|
| ＜収入＞ | 2,912,661円 | 前年比(▼) | 98,670円) | | | | | | | | |
| 会費 | 1,277,500+ | カンパ | 1,004,296+ | 事業収入 | 38,325+ | その他 | 417,346+ | 繰越金 | 175,194 | | |
| | (▼74,500) | | (▼47,126) | | (▼248,276) | | (259,845) | | (11,386) | | |
| ＜支出＞ | 2,852,461円 | 前年比(▼) | 16,324円) | | | | | | | | |
| 交通 | 957,730+ | 通信 | 354,740+ | 宿泊 | 218,935+ | 事務所 | 600,000+ | 振込 | 3,950+ | 印刷 | 39,965 |
| | (168,400) | | (▼90,632) | | (68,188) | | (50,000) | | (▼100) | | (1,365) |
| +借上げ・使用料 | 14,000+ | 事務消耗品 | 191,969+ | 分担金 | 66,112+ | その他 | 405,060 | | | | |
| | (136,400) | | (46,747) | | (21,510) | | (123,760) | | | | |
| ＜収支決算＞ | 60,200円 | (▼) | 114,994円) | ←繰り越し金 | | | | | | | |

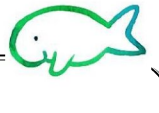


昨年の総会の様子(東京)



収入では、前年度は海勢頭CD販売があったので事業収入が減少しました。その他項目はジュゴンの里ツアーなどの振込金です。支出では、アブダビ出張で交通費、宿泊費が増えましたが緊縮会計になっています。借上げはCD購入費がなくなり減りました。

『キジムナー』～こらむ・こらむ～



先月中縄の新聞に、亜熱帯の森・夜の山原の林道に降り立った、赤い眼光のキジムナーの写真が載っていた。

森の村のガマルなどの大木に住み、夜にならないと現れないキジムナー。

奄美ではケンムンと呼ばれていて、漢字で表せば「木の精の者」「木の者」または「怪の者」と読み取れる。ただし大宜味村あたりではブナガヤと呼ばれていて、その語原は可なのか?見当がつかない。

さて、キジムナーが実在の物か、架空の物なのか?今もって検証した人はいない。むしろ正本を不問にしたまま、愛すべき妖怪キャラクターとして重宝しているのが、沖縄のキジムナー文化の現状である。

キジムナー像は、昔から伝えられてきた目撃談によってイメージ化されているが、今一度それをまとめてみると、キジムナーの正本は見えてくる。

キジムナーは、小さい子どものように見えると言う。赤い

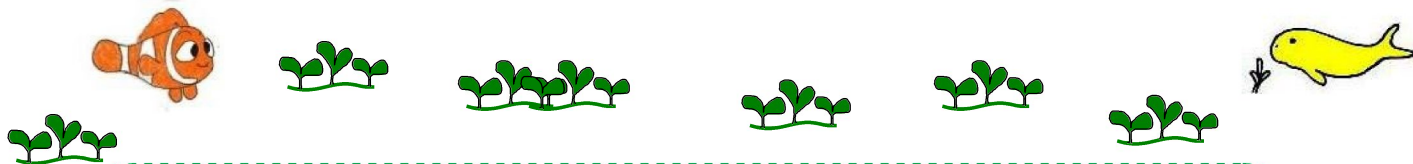
髪で、丸い大きな目玉でしーっと睨むという。夜、そんな奇妙な怪な双い、いきなり出くわしたら、一瞬、誰でも思考停止し、驚愕するに違いない。そして目撃談に、いきなり電撃が打って、誇張されたのだが、ことキジムナーに関しては、割と共通した話にまとまっているようである。

出会った場所が暮れの野道であったり、屋根の上であったり、夜寝ている家に入ってきて、金縛りになったとか、音もなく空を飛び、海で魚を取って、目玉だけを食べていたとか。

実際こんなことが出来る動物と言え、フクロウの仲間しかいない。特に大型のリュウキュウオオコノハズクがキジムナーのルーツであると思っ間違いないであろう。

だからこの話は夢を壊すので止めにする。今大事なことは、ジュゴンが具体的に平和に関わる動物であることを訴えることである。

海勢頭豊(うみせと ゆたか:SDCC共同代表)



～ SDCC 10年の歩み ～

- | | | |
|-------|-----|---|
| 2000年 | 10月 | IUCN (ヨルダン・アンマン) で、ジュゴン保護勧告 |
| 2001年 | 3月 | SDCC 結成 |
| | 4月 | 東京、大阪でシンポ (米国 NGO・NRDC ロバート・アデルさん) |
| | 6月 | ヘレン・マーシュ講演会 (東京、大阪、沖縄) |
| 2002年 | 9月 | 関西事務所を開設 |
| | 9月 | ジュゴン国際シンポ (豪州、比国、米国、環境省。東京・2日間) |
| 2003年 | 5月 | 第1回ザンの海アシビ (毎年実施) |
| | 11月 | 第1回ジュゴン定点観測 (2004年2回実施) |
| 2004年 | 2月 | 市民からの方法書各地で説明会 (5月市民アクセスなごの結成) |
| | 11月 | IUCN (タイ・バンコク) で、再勧告 |
| 2006年 | 3月 | アジア太平洋ジュゴン保護ネットワーク・シンポ (比国、ベトナム、タイ。東京、沖縄) |
| 2008年 | 10月 | IUCN (スペイン・バルセロナ) で、三度目の決議 ～2010年国際ジュゴン年キャンペーン |
| 2010年 | 10月 | ジュゴン保護覚え書き第1回署名国会議に参加 (UAE・アブダビ) |
| | 10月 | CBD・COP10に参加 (名古屋) |
| | 12月 | 名護市議会に陳情決議を提出～継続審議 |

～ジュゴン募金箱があるお店～

しまゆい
島結

今回ご紹介するのは、神奈川県藤沢市藤沢本町にある沖縄料理店「島結」さんです。ヤマトンチュのご夫婦が暖かいアットホームな雰囲気でご来店を歓迎して下さいます。2008年に藤沢市内でジュゴンイラスト写真展を開催するに当たって、藤沢市内の沖縄料理店をネット検索しチラシを持って行ったのがお付き合いの始まりです。

お店の内装は、手作りで南国のムード満点です。料理のレシピも豊富で、沖縄料理にとどまらず、バリ島でのレストラン経営の経験を生かして、南国情緒豊かなメニューもたくさんあります。きまぐれ?メニューもありますよ～!!

また泡盛の種類も豊富で、専属泡盛マイスターのコメント付きで、入手困難な泡盛など楽しめます。


レジの近くには、SDCCの手作り募金箱を置かせて頂いていて、会計の際にジュゴン保護のためにお客さんにカンパをしてもらっています。これまで10,263円も募金を頂いています。ホームページはこちらです →

<http://members2.jcom.home.ne.jp/shimayui/>

これからもおいしい泡盛と創作料理を楽しみにお店に通いたいと思います。
首都圏・三村昭彦



これからのスケジュール

- 4月10日 SDCC総会 (大阪)
- 1時半～ ドーンセンター (京阪・地下鉄天満橋駅下車)
- 4月16日集会 (辺野古実行委員会、星陵会館)
- 4月22日三省交渉 (予定)
- 4月23, 24日アースデイ (代々木公園)
- 5月末署名提出 (締め切り5月10日)
- 5月21～22日 首都圏写真展
- 6月24～26日 シュゴンの里ツアー 

へんぱく!



「へんぱく」とは「変!地球博ラン会」の略。「変だ!」と思うことに声を上げよう!と2/11通天閣下のスタジオで開催された音楽イベントです。ヘリパッド工事が強行される中、「やんばる東村・高江を応援しよう」と、約500名が集まり、SDCCもブースを出しました。高江から来!ロックン!ド・ストローク!のアピールと真奏で盛り上がりました。「高江!行こう!!」



あみちゃんのフィリピン訪問記 ～その1～



あみこと関西スタッフの正阿彌(しょうあみ)です。今号からシリーズで3月2日～8日に訪れたフィリピンでのシュゴン保護についてご報告します。沖縄のシュゴンってフィリピンから渡ってきたって知っていましたか?三重の鳥羽水族館のシュゴンもフィリピンから来ています。でも、そんなフィリピンでもシュゴンは絶滅の危機にさらされています。そこでフィリピンでは地域を中心とした新しい形の保護区・クリティカル ハビタットを作ろうという動きが出てきました。私はその候補地であるフィリピンのミンダナオ島のヒナトゥアンという小さな港町をおとすれ、住民の方、市長、環境自然資源庁の方からお話を聞くことができました。沖縄での保護区にも参考になることがあると思います。詳しくは次号から書いていきます。乞うご期待☆

東北・関東大震災の被災者の皆さん、関係者の皆さんに、心からお見舞い申し上げます。そして、被災者の皆さんへの支援を呼びかけます。

大震災による津波の影響で福島原発事故による放射能汚染が広がっています。被災者への仮設住宅や生活の再建措置を直ちに講じること、放射能汚染の迅速な情報公開と被曝対策を政府や東京電力に求めたいと思います。



ミンダナオ島ヒナトゥアン

クリティカル ハビタット
候補地域の島民の方と

Editor's Note



3/14に辺野古テント村へ行って来ました。去年リボンを結んだ鉄条網は撤去され、フェンス設置のために海まで掘り返す大掛かりな工事が進行中でした。でもネバーギブアップの気持ちで、みんなが書いてくれた「海を守ろう」のバナーを杭にくくりつけてきました。そのあと、写真家の牧志治さんの案内で海へ。この日の海ははとて透明度が高く、アオサンゴなど、たくさんの生きものたちと出会えました。「シュゴンの海を守ることは、豊かな未来をつくること」の思いは強くなるばかりです。(Y)

署名

第3次集約は5月10日です。
皆さまの更なるご協力をお願いいたします。

シュゴンちゃんぶるニュース VOL.55 2011年3月21日発行
シュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
Tel/Fax 03-5228-1377 〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-21
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
TEL/FAX 06-6353-0514

